Sub Title Studies on "To-wa" dictionary: Japanese colloquial terms that appeared from the end of Edo era to the beginning of Meiji era Author	Title	唐話辞書に見られる幕末明治期の俗語研究
### the beginning of Meiji era Author 木村、義之(Kimura, Yoshiyuki) Publication year Jitile 学事振興資金研究成果実績報告書 (2017.) Jal.C DOI Abstract 2018 Abstract 2017年度は、引き続き公口松軒「配本大字類苑。の語像・表記の全貌を明らかにするために、語彙データペースを完成させることに力を傾けた。2016年度までに約88%の入力が完了したが、2017年度に入力は100%完成したことになる。 その結果、の代書数で5506話に異なり、自聴数で26435節の規模となった。ただし、本資料は、単語レベルのみならず、句レベルでも見出し語として立っているため、それをさらに短単位に区切ったデータを示すにはもう少し時間が必要となる。2016年度の報告で記したように、「魁本大字類苑』の日話語彙に付される日本語に、(力)百官の利用。 (2)江戸期までの外来語の使用例、(3)俗語と自話語彙の豊富な対応例、といった特徴を指摘したが、漢語を観察の中心にする必と、漢語の出版されば、life, livelihoodなどの別語としてどのような語が用いられたのかをという視点で考察を加えた「生活」である。現代語の「生活(セイカツ)」は、近代以家に日常語さなっていたとは考えられず、変身料の記載では、「セイカツ」に関連する和語から例を求めてみみと「クラスギ:鰒」飼口、生活、活計、長口、スギハヒフカビ、計造店・エリハヒ・汗・資産、スギハヒフカビ・計造店・エリハヒ・ア・資産、スギハヒフカビ・計造店・エリハヒ・デ・資産、スギハヒフカビ・計造店・エリハヒ・デ・資産、スギハヒフカビ・計造店・エリハヒ・デ・資産、スギハヒフカビ・活造店・エリハヒ・デ・資産、スギハヒフカビ・主持、活計・ヨワタリノウザ・営業、活計・会日・ヨワタリン・生活。ヨワタリコト・生計、活計・ヨワタリフザ・営業、のような関係あった。すなわら、近代の日常開居にして「生活」が「生計」の多様構成をカバーする用法を持ち、広く使われていたが、「生活」の使用期間は挟かったと考えられる。このように、近代の準備期間に当る幕末明治初期の文蔵かドーする用法を持ち、広く使われていたが、「生活」の使用期間は挟かったと考えられる。こように、近代の準備期間に当る幕末明治初期の文蔵かドーする明述を持ち、広く使われていたが、「生活」の使用期間は挟かったと考えられる。こように、近代の準備期間に当る事末明治初期の文蔵かドーする用述を持ち、広く使われていたが、「生活」の使用間間は外かったと考えられる。こように、近代の事情を持ち、に、専門辞書」の項で概説し、側別辞書の報題を行った。また、「生活」「関する等は、外森を世紀後に10年7月である。こように、生活」「こように、大利の自述は10年7日で10年7日で10年7日		
Author 末村、義之(Kimura, Yoshiyuki) Publisher	Sub Tille	
Publisher 型の8	A 4 lb . a . r	
Publication year 2018		
### Jail		
Jalc DOI Abstract 2017年度は、引き続き谷口松軒「魁本大字類苑」の語彙・表記の全貌を明らかにするために、語彙データベースを完成させることに力を傾けた。2016年度までに約88%の入力が完了したが、2017年度に入力は100%完成したことになる。その結果、のべ語数で55065語、異なり語数で26435語の規模となった。ただし、本資料は、単語レベルのみならず、句レベルでも見出し語として立っているため、それをさらに短単位に区切ったデータを示すにはもう少し時間が必要となる。2016年度の報告で記したように、「魁本大字類苑」の白話語彙の付きれた日本語に、(1)方言の利用、(2)江戸期までの外来語の使用例、(3)俗語と日話語彙の豊富な対応例。といった特徴を指摘したが、漢語を観察の中心にすえると、漢語の出典は中国古典にあるものの、日本側の文献で活発に使われるようになるのが、近代以降になる例が発見できる。一例を挙げれば、life、livelihoodなどの訳語としてどのような語が、用いられたのかをという規点で考察を加えた「生活」である。現代語の「生活(セイカツ)」は、近代以降に日常語となっていたとは考えられず、本資料の記載では、「セイカツ」に関連する和語から例を求めてみると「クチスギニ 過活、活計、養口。スギハヒノモト・資産、スギハヒラカセグ: 赶過活:ナリハヒ 活業 活計、生計、湾社・妻コワタリン・生活、活・ヨワタリフザ・営業」、のような関係があった。すなわち、「セイカツ」は「世渡り」のように、生きて行くためのてだて、生きるすべ、として用いられ、現在のような「学生生活」、「生活環境」のような「光はまだ発達していないことが明らかになった。近代の日常用語として「生活」が用いられるようになるのは、20世紀初度、それ以前は「活計」が「生計」の豪味領域をカバーする用法を持ち、広く使われていたが、「生活」の使用観曲は終かったと考えられる。このように、近代の準備期間に当る幕末明治初期の文献から得られるテーマは豊富であり、そのことを知るためにも本資料の語彙データ作成は有効であったと考えられる。こうした本資料の酵達としての位置づけは、沖森卓也・新義之はか編(2017、おうふう)「図説近代日本の辞書」に「専門辞書」の項で根拠し、個別辞書の解題を行った。また、「生活」に関する考察は、沖森卓也構図(2018年、三十年度、上海、東京の財産といの位置づけは、沖森卓で、1年度、上本の周辺」としてまとめた。At the year of 2017、I consequently constructed the terminology database of 'Kaihon Daijiruien'、(赵本大字頻苑) edited by Taniguchi Shôken (名の LAW H). Unli the year of 2017、in completely finished inputting about 88% of the whole data、and until the year of 2017、Completely finished the task of constructing the database. The database includes 55,065 words as a whole, and 26,435 words as different terms I already pointed out in my report of 2016 that we could find these unique data in 'Kaihon Daijiruien': 1) Dialectical terms、2) Loamwords that were used until the Edo period、3) Colloquial Chinese terms with Japanese carification. As for Chinese terms, Kaihon Daijiruien': 1) Dialectical terms, 2) Loamwords that were used until the Fedo period. For example, let's see the term 「seikatsu (生活)」、In the modern period, this term normally means "life, livellihood" However, according to 'Kaihon Daijiruien', it was not used as a daily term to indicate 「生活、プネジ・ドス・ロード・・ロード・ロード・ロード・ロード・ロード・ロード・ロ	·	
Abstract 2017年度は、引き続き谷口松軒「魁本大字頸苑」の語彙・表記の全貌を明らかにするために、語彙データベースを完成させることに力を傾けた。2016年度までに約88%の入力が完了したが、2017年度に入力は100%完成したことになる。その結果、のく語数で55065語、異なり語数で26435語の規模となった。ただし、本資料は、単語レベルのみならず、句にベルでも見出し語として立っているため、それをさらに短単位に区切ったデータを示すにはもう少し時間が必要となる。2016年度の報告で記したように、「影本大字類苑」の自話語彙に付された日本語に、(1)方言の利用、(2)江戸期までの外来語の使用例、(3)俗語と自話語彙の豊富な対応例、といった特徴を指摘したが、漢語を観察の中心にすえると、漢語の出典は中国古典にあるものの、日本側の文献で活形に使われるようになるのが、近代以降になる例が発見できる。一例を挙げれば、life、livelihoodなどの訳語としてどのような語が用いられたのかをという規点で考察を加えた「生活」である。現代語の「生活(セイカツ)」は、近代以前に日常語となっていたとは考えられず、本資料の記載では、「セイカツ」に関連する利語から例を求めてみると「クチスギ:鍼、鍋」「、ま」のラシテ中ル: ギ火、生活、カフランコト・生活、活計。コラタリノワザ・音楽、」のような関係があった。オント・・・ 資産。スギハヒフカセグ・赶過活:ナリハヒ:活業、活計、生計、営生。コワタリ・生活。コウタリフト・生活、活計・コラタリフト・・・ (1) では、大して用いられ、現在のような「学生生活」「生活環境」のような月法はまだ発達していないことが明らかになった。近代の日常開題にとして「生活」が用いられるようになるのは、20世紀初頭で、それ以前は「活計」が「生計」の意味領域をカバーする用法を持ち、広く使われていたが、「生活」の使用範囲はかったと考えられる。この人は、20世紀初頭で、それ以前は「活計」が「生計」の意味領域をカバーする用法を持ち、広く使われていたが、「生活」の意味領域をカバーする用法を持ち、広く使われていたが、「生活」の意味領域をカバーする用法を持ち、広く使われていたが、「生活」の意味領域をカバーする用法を持ち、広く使用を加えていたが、「生活」の意味領域をカバーする用法を持ち、広く使われていたが、「生活」に関する解析の音楽データ作成は有効であったと考えられる。この上本資料の語楽データ作成は有効であったと考えられる。この上本資料の語楽データ作成は有効であったと考えられる。この上本資料の語楽学では、近にないていたが、「生活」の意味の経過に「正確しま」に、「非常といるでは、「地にないないないないないないないないないないないないないないないないないないない		学事振興資金研究成果実績報告書 (2017.)
語彙データベースを完成させることに力を傾けた。2016年度までに約88%の入力が完了したが、2017年度に入力は100%完成したことになる。その結果、のべ語数で55065語、異なり語数で26435語の規模となった。ただし、本資料は、単語レベルのみならず、句レベルでも見出し語として立っているため、それをさらに短単位に区切ったデータを示すにはもう少し時間が必要となる。2016年度の報告で記したように、「魁本大字類苑』の白話語彙に付された日本語に、(1)方言の利用、(2)江戸期までの外来語の使用例、(3)俗語と白話語彙の豊富な対応例、といった特徴を指摘したが、演語を観察の中心にすえると、漢語の出典は中国古典にあるものの、日本例の文献で添発に使われるようになるのが、近代以降になる例が発見できる。一例を挙げれば、life、livelihoodなどの訳語としてどのような語が用いられたのかをという視点で考察を加えた「生活」である。現代語の「生活(セイカツ)」は、近代以前に日常語となっていたとは考えられず、本資料の記載では、「セイカツ」に関連する和語から例を求めてみると「クテスギ・餓、餬口、生活。クラシテ中ル:挙火、生活、衣食、スギワイ・スギハヒノカ・ジ・担通活・ナリハヒ・活業、産業、営生、為生、過活、活計、養口。スギハヒノト・・・・ 注意、スキハヒラカセグ・起通活・ナリハヒ・活業、活計、生計、声生。ヨワタリ・生活。コワタリコト・生計、活計。ヨワタリノサ・営業、。のような関係があった。すなわち、「セイカツ」は「世渡り」のように、生きて行くためのてだて、生きるすべ、として用いられ、現在のように「学生活」「生活環境」のような用法は手が達していなどが明らかになった。近代の日常用語として「生活」が用いられるようになるのは、20世紀初頭で、それ以前は「活計」が「生計」の意味領域をカバーする用法を持ち、広く使われていたが、「生活」の使用範囲は繋かったと考えられる。このように、近代の準備期間と当る幕末刺済効助卵の文献がら得られるテーマは豊富であり、そのことを知るためにも本資料の語彙ディケルをあったと考えられる。こうした本資料の辞書としての位置づけは、沖森卓也・木村義之はが編(2017、おうふう)「図説近代日本の辞書と「「専門辞書」の項で概説し、個別辞書の解題を行った。また、「生活」に関する考察は、沖森卓場(2017、おうふう)「図説近代日本の辞書と「「専門辞書」の項で概説し、個別辞書の解題を行った。また。「生活」に関する考察は、沖森卓場(2017、はあらな)、「空間、日本経りのはははは、日本経りのはははは、日本経りのはははは、日本経りのはははないならないのはははないないのははいいではいいのははいいのはいいで、「生活」に関する考察は、沖森卓に関いのはいいは、中ではのはいはいは、日本経りのはいはいは、日本経りのはいはいまなのではいばい性を自なのはいはいまないは、日本経りのはいばいは、中ではのはいばいは、日本経りのはいばいは、日本経りのはいばいは、日本経りのはいばいは、日本経りのはいばいは、日本経りのはいばいは、日本経りのはいばいは、日本経りのはいばいは、日本経りのはいばいは、日本経りのはいばいは、日本経りのはいばいは、日本経りのはいばいは、日本経りのはいばいは、日本経りのはいばいは、日本経りのはいばいは、日本経りのはいばいは、日本経りのはいばいはいばいは、日本経りのはいばいは、日本経りのはいばいは、日本経りのはいばいはいばいは、日本経りのはいばいは、日本経りのはいばいは、日本経りのはいばいは、日本経りのはいばいは、日本経りのはいばいは、日本経りのはいばいはいばいはいばいはいばいはいばいはいばいはいばいはいばいはいばいはいば	JaLC DOI	
「gakusei seikatsu (学生生活)」「seikatsu kankyō (生活環境)」, has not emerged in this period. The modern usage of 「生活」 appeared at the beginning of 20th century, and until then, the Chinese term 「kakkei (活計)」 had been used instead. In this way, 'Kaihon Daijiruien' shows us	JaLC DOI	2017年度は、引き続き谷口松軒「魁本大字類苑」の語彙・表記の全貌を明らかにするために、語彙データベースを完成させることに力を傾けた。2016年度までに約88%の入力が完了したが、2017年度に入力は100%完成したことになる。 その結果、のべ語数で55065語、異なり語数で26435語の規模となった。ただし、本資料は、単語レスルのみならず、句しべルでも見出し語として立っているため、それをさらに短単位に区切ったデータを示すにはもう少し時間が必要となる。2016年度の報告で配したように、「魁本大字類苑」の自話語彙に付された日本語に、(1)方言の利用、(2)江戸期までの外来語の使用例、(3)俗語と白話語彙の製画な対応例、といった特徴を指摘したが、漢語を観察の中心にすえると、漢語の出典は中国古典にあるものの、日本側の文顔で活発に使われるようになるのが、近代以降になる例が発見できる。一例を挙げれば、life、livelihoodなどの訳語としてどのような語が、近代以降になる例が発見できる。一例を挙げれば、life、livelihoodなどの訳語としてどのような語が用いられたのかをという視点で考察を加えた「生活」である。現代語の「生活(セイカツ)」は、「セイカツ」に関連する和語から例を求めてみると「クチスギ・銀・鍋口、生活。人ラシテヰル:「を強、コアクリコト・生計、活計。ヨワタリンでザ・営業、」のような関係があった。すなわち、「セイカツ」は「世渡り」のように、生きて行くためのてだて、生きるすべ、として用いられ、現在のような「学生生活」「生活環境」のような用法はまだ発達していないことが明らかになった。近代の日常用語として「生活」が用いられるようになるのは、20世紀初頭で、それ以前は「活計」が「生計」の意味領域をカバーマる用えを持ち、なく使われていたが、「生活」の使用範囲は狭かったと考えられる。このように、近代の準備期間に当る幕末明治初期の文献から得られるテーマは豊富であり、そのことを知るからに本本資料の語彙でが構成をが、「中の使用範囲は狭かったと考えられる。このように、「専門辞書」の項で概説し、個別辞書の解題を7つた。また、「生活」に関する考察は、沖森卓也に対けは、沖森卓也・木村義之ほか編(2017、おうふう)「図説近代日本の辞書」に「専門辞書」の項で概説し、個別辞書の解題を7つた。また、「生活」の使用を書は「中の性の表表を作るで、2017、にの内を収まれていたが、「生活」の使用を書は、「本は内の音楽は、中では、10 に関する考察は、沖森卓也には、10 に対しに対しまならでのおけに対しまならでのおけに対しまならでのおいまならでは、11 に対しまならでのおいまならでのおいまならでは、11 に対しまならでのおいまならでは、11 に対していまならでは、11 に対していまならでのおいまならではが、12 に対していまならでのおいまならでは、11 に対していまならでのおいまならでは、11 に対していままならでは、12 に対していまならでは、11 に対していまならでのおいまならでは、12 に対していまならでは、12 に対しないまならでは、12 に対していまならでは、12 に対していまならでは、12 に対していまならでは、12 に対していまならでは、12 に対していまならでは、12 に対しまならでは、12 に対しまならでは、12 に対しないまならでは、12 に対しないまならでは、12 に対しないまならでは、12 に対しないまならでは、12 に対しないまならでは、12 に対しないまならでは、12 に対しまならでは、12 に対していまならでは、12 に対しないまならでは、12 に対しないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまな

	database of 'Kaihon Daijiruien' would be very helpful in the future research. As for 'Kaihon Daijiruien', I clarified it as a historical data resource in the following literature: 沖森卓也・木村義之ほか編(2017, おうふう)『図説 近代日本の辞書』(「専門辞書」). As for the term 「生活」, I wrote the following thesis:「近代用語としての「生活」とその周辺」 (沖森卓也編(2018, 三省堂)『歴史言語学の射程』, scheduled to be published)
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2017000001-20170146

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2017 年度 学事振興資金 (個人研究) 研究成果実績報告書

研究代表者	所属	日本語・日本文化教育センター	職名	教授	補助額	300	(A)	千円
	氏名	木村 義之	氏名 (英語)	Yoshiyuki Kimura	冊切額	300 (7	(A)	ΤΠ

研究課題(日本語)

唐話辞書に見られる幕末明治期の俗語研究

研究課題 (英訳)

Studies on "To-wa" dictionary: Japanese colloquial terms that appeared from the end of Edo era to the beginning of Meiji era

1. 研究成果実績の概要

2017 年度は、引き続き谷口松軒『魁本大字類苑』の語彙・表記の全貌を明らかにするために、語彙データベースを完成させることに力を傾けた。2016 年度までに約88%の入力が完了したが、2017 年度に入力は100%完成したことになる。

その結果、のべ語数で55065 語、異なり語数で26435 語の規模となった。ただし、本資料は、単語レベルのみならず、句レベルでも見出し語として立っているため、それをさらに短単位に区切ったデータを示すにはもう少し時間が必要となる。2016 年度の報告で記したように、『魁本大字類苑』の白話語彙に付された日本語に、(1)方言の利用、(2)江戸期までの外来語の使用例、(3)俗語と白話語彙の豊富な対応例、といった特徴を指摘したが、漢語を観察の中心にすえると、漢語の出典は中国古典にあるものの、日本側の文献で活発に使われるようになるのが、近代以降になる例が発見できる。一例を挙げれば、life,livelihood などの訳語としてどのような語が用いられたのかをという視点で考察を加えた「生活」である。現代語の「生活(セイカツ)」は、近代以前に日常語となっていたとは考えられず、本資料の記載では、「セイカツ」に関連する和語から例を求めてみると「クチスギ: 餬、餬口、生活。クラシテヰル: 挙火、生活、衣食。スギワイ・スギハヒ: 生業、産業、営生、為生、過活、活計、養口。スギハヒノモト: 資産。スギハヒヲカセグ: 赶過活: ナリハヒ: 活業、活計、生計、営生。ヨワタリ: 生活。ヨワタリゴト: 生計、活計。ヨワタリノワザ: 営業。」のような関係があった。すなわち、「セイカツ」は「世渡り」のように、生きて行くためのてだて、生きるすべ、として用いられ、現在のような「学生生活」「生活環境」のような用法はまだ発達していないことが明らかになった。近代の日常用語として「生活」が用いられるようになるのは、20世紀初頭で、それ以前は「活計」が「生計」の意味領域をカバーする用法を持ち、広く使われていたが、「生活」の使用範囲は狭かったと考えられる。このように、近代の準備期間に当る幕末明治初期の文献から得られるテーマは豊富であり、そのことを知るためにも本資料の語彙データ作成は有効であったと考えられる。

こうした本資料の辞書としての位置づけは、沖森卓也・木村義之ほか編(2017、おうふう)『図説 近代日本の辞書』に「専門辞書」の項で概説し、個別辞書の解題を行った。また、「生活」に関する考察は、沖森卓也編(2018 予定、三省堂)『歴史言語学の射程』に「近代用語としての「生活」とその周辺」としてまとめた。

2. 研究成果実績の概要(英訳)

At the year of 2017, I consequently constructed the terminology database of 'Kaihon Daijiruien' (魁本大字類苑) edited by Taniguchi Shōken (谷口松軒). Until the year of 2016, I had finished inputting about 88% of the whole data, and until the year of 2017, I completely finished the task of constructing the database. The database includes 55,065 words as a whole, and 26,435 words as different terms.

I already pointed out in my report of 2016 that we could find these unique data in 'Kaihon Daijiruien': 1) Dialectical terms, 2) Loanwords that were used until the Edo period, 3) Colloquial Chinese terms with Japanese clarification. As for Chinese terms, 'Kaihon Daijiruien' proves that some Chinese terms started to appear frequently in Japanese books after the modern period, not in the Edo period.

For example, let's see the term 「seikatsu(生活)」. In the modern period, this term normally means "life, livelihood". However, according to 'Kaihon Daijiruien', it was not used as a daily term to indicate 「生活」. At this point, 「生活」 mainly referred to a method of living, to an action to make a living, unlike the modern period. Searching similar terms to the modern usage of 「生活」, we can find「クチスギ」「クラシテヰル」「スギハヒ」「ナリハヒ」「ヨワタリ」etc. as Japanese originated terms. Assuming from this data, the modern usage of 「生活」, such as 「gakusei seikatsu(学生生活)」「seikatsu kankyō(生活環境)」, has not emerged in this period. The modern usage of 「生活」appeared at the beginning of 20th century, and until then, the Chinese term 「kakkei(活計)」had been used instead. In this way, 'Kaihon Daijiruien' shows us various themes when researching the terminology from the end of the Edo era to the beginning of the Meiji era, which we can call the dawn of the modern period. From this point of view, the database of 'Kaihon Daijiruien' would be very helpful in the future research.

As for 'Kaihon Dajjiruien', I clarified it as a historical data resource in the following literature: 沖森卓也・木村義之ほか編(2017、おうふう)『図説 近代日本の辞書』(「専門辞書」).

As for the term 「生活」, I wrote the following thesis: 「近代用語としての「生活」とその周辺」(沖森卓也編(2018、三省堂)『歴史言語学の射程』, scheduled to be published)

3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			
	沖森卓也・木村一・木村義之・陳力衛・山本真吾『図説近代日本の辞書』(2017,おうふう)					